

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「千里から世界へ、未来への航海」の標語のもと、確かな知識・学力と豊かな感性に基づく知的好奇心と行動力を備え、自他を敬愛・尊重し、グローバルな視点と自主・自律・創造の精神をもって自己実現を図り、よりよい未来社会を実現するために活躍できる人物を育成する学校

2 中期的目標

◆ 国際社会・地域社会で活躍する生徒の育成という本校の目標の実現をめざす。

1 確かな学力の育成及び希望進路の実現

(1) 進路につながる学力の育成

- ア 1日7時間授業を行うとともに、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学びに向かう力をバランスよく育成する。
- イ 大学や研究機関、企業関係者等との連携・助言による学習を数多く経験することにより、自己の将来について考え、学習に対する関心・意欲を高める。

(2) 国際・科学高校としての専門性の錬磨

- ア SSH、WWLなど研究指定等を積極的に活用し、知識・技能を活用する力の育成と課題研究の質の向上を図る。
- イ 校内外研修、語学研修、国際教育、国際交流等に積極的に取り組む。

(3) 全ての生徒の希望進路の実現

- ア 進路指導における指導実績の蓄積と継承に基づき、生徒一人ひとりの進路希望と学力や意識について把握し、指導・支援する。
- イ 長期休業期間や土曜、放課後における補習・講習等を計画的かつ生徒のニーズにあうように実施する。
*国公立大学現役合格率約3割を令和8年度も維持するとともに、京阪神大の現浪合格者数を30名にする。
(R3:35% R4:32% R5:25%) (R3:18名 R4:29名 R5:10名)

2 豊かな人間性の涵養

(1) 知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成

- ア 生徒会活動や学校行事、すべての学校生活を通してリーダーシップや協調性、創造性、豊かな感性を育む。
- イ 部活動、国際交流、学会等での発表など、校内外の活動にも積極的に取り組み、学習と両立させる。

(2) 人権を尊重する精神の涵養

- ア 卒業生や社会貢献に取り組む人たちによる講演や交流、特色ある授業を行うことで、多くの価値観に触れて豊かな人権感覚を養う。
- イ 人権講演会や人権ホームルームを充実させ、多様性を尊重する人権教育を推進する。
- ウ 細やかな教育相談体制を継続し、支援を必要とする生徒に組織として適切に対応する。

3 学校の組織力の向上

(1) 学習指導方法の工夫改善

- ア スクール・ポリシーの実現のために教科・学年・分掌を超えた情報共有を図る。
- イ 学校全体として研究授業を行うとともに研究協議を実施し、PDCAサイクルによる授業改善を継続する。
- ウ 学習指導要領の実施、評価方法についての研究、新課程大学入試対応、1人1台端末のさらなる活用など新しい教育課題への取組みを継続する。

(2) 危機管理力の向上

- ア 感染症対応やインターネットトラブル、いじめ事象など、不測の事態が起きても迅速に対応できる組織的な対応力を維持・強化する。

(3) 効果的な情報発信

- ア 本校の特長と魅力の先鋭化と情報発信の強化

(4) 働き方改革の推進

- ア 組織としての方向性の共有を基盤にさらなる校務の効率化を図り、教職員が生き生きと働ける職場づくりを推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成及び希望進路の実現	(1) 進路につながる学力の育成	(1)	(1)	
	ア 知識習得型授業と探究型授業のバランス	ア・7時間授業により授業内容を充実させる。	ア・「授業は充実しており満足できる」85%以上を維持 [88%] ・「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」90%以上を維持 [96%]	
	イ 大学等との連携・助言による学習、体験型学習の実施	イ・外部連携等により指導助言を受けたり、体験型学習を実施したりすることで、学習意欲を喚起したり、将来の生き方について考えたりさせる。	イ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」90%以上を維持 [92%]	
	(2) 国際・科学高校としての専門性の錬磨	(2)	(2)	
	ア SSH、WWLによる知識・技能を活用する力と課題研究の質の向上	ア・課題研究（「探究」「科学探究」）を積極的に実施し、関係組織と連携し、専門分野における探究力を高める。 ・SSH及びSGH中間発表時等における両学科間の交流を図る。 ・生徒の様々な形態のプレゼンテーションを実施する。 ・研究指定校等、取組みの先進的な学校を視察するなど研究に努め、本校の実践に還元する。	ア・「探究や科学探究の授業は知的好奇心を高める」80%以上を維持 [83%] ・学科を超えた（文理融合）交流及び合同の研究活動の試行 ・校外プレゼンテーション参加数 80人以上 [105人] ・教員による先進校視察や研修の受講を計画的に進める。 延べ20名 [10名]	
	イ 校内外研修、国際教育、国際交流の取組み	イ・校内外での探究・科学探究に係る研修の実施 ・オンラインを含む国際交流や校内外における語学研修・国際交流の機会を設ける。	イ・語学研修・国際交流の機会、科学系の研修に参加または実施する。10回以上 [13回] ・「千里高校は国際性を養う機会が多い」国際文化科の生徒90%以上 [92%]「千里高校は科学への興味を高める機会が多い」総合科学科の生徒90%以上 [93%]を維持	
	(3) 希望進路の実現	(3)	(3)	
	ア 進路指導のノウハウの継承による進路指導支援	ア・3年間を見通した総合的指導計画（学習指導・進路指導・生活指導等）、独自資料を活用し、指導・支援する。	ア・国公立大学合格者数現役約30%を復活する。 [25%] ・「進路についての情報を適切な時期に知らせてくれる」80%以上維持 [86%]	
	イ 補習・講習等の充実	イ・補習・講習等について効果的で生徒の要望にあうように立案計画実施する。	イ・「希望する進路を実現するための講習等が充実している」80%以上維持 [84%]	
	2 豊かな人間性の涵養	(1) 知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成	(1)	(1)
ア 学校行事等によるリーダーシップ、協調性、創造性、感性の育成		ア・生徒会活動、学校行事が活発に行われるよう工夫する。	ア・「生徒会活動は活発である」80%以上を維持 [82%]「体育祭や文化祭は楽しく行えるように工夫されている」85%以上 [91%] ・「千里高校に入学してよかった」80%以上 [86%]	
イ 部活動、校内外の活動と学習の両立		イ・部活動等を充実させるとともに、家庭学習との両立を図る。	イ・「部活動は活発である」90%以上を維持 [96%] ・「家庭学習する時間を確保できている」70%以上 [68%]	
(2) 人権を尊重する精神の涵養		(2)	(2)	
ア 社会貢献活動等に触れることによる豊かな人権感覚の醸成	ア・社会貢献に取り組む卒業生や専門家による講演及び連携協力を推進する。	ア・「様々な場面で豊かな心や人の生き方について考える機会がある」80%以上 [85%] ・「社会貢献活動に関わることは大切だと思う」90%以上 [94%]		

府立千里高等学校

	イ 多様性を尊重する人権教育の推進	イ・HRで外部人材の講演等を活用し、人権学習等を充実させ、人としての在り方生き方を学ぶ道徳教育を推進する。	イ・「人権について学ぶ機会がある」90%以上を維持 [95%]	
	ウ 教育相談体制の確立	ウ・定期的に情報共有を図り、不登校等の生徒の把握と対応に組織として取り組む。 ・いじめの未然防止に努め、万一生起した場合は迅速かつ真摯に対応する。 ・研修の充実やスクールカウンセラーとの連携により、不安定な生徒のケアを図る。	ウ・「悩みに応じてくれる先生がいる」75%以上[79%] ・「いじめについて困っていれば真剣に対応してくれる」85%以上[88%]	
3 学校の組織力の向上	(1) 学習指導方法の工夫改善	(1)	(1)	
	ア 教科・学年・分掌を超えた情報共有	ア・教職員が「チーム千里」としてスクール・ポリシーを教育活動に反映するための共有と具現化の機会を設け、各教科・学年・分掌でのスタンダード教育計画を策定する。	ア・策定したスタンダード教育計画の公表 ・「分掌や学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」65%以上 [62%] ・「教育活動について日ごろから話し合っている」80%以上 [76%]	
	イ 研究授業・研究協議の実施による授業改善	イ・学校全体として研究授業を行うとともに研究協議を実施し、授業改善のためのPDCAサイクルを回す	イ・今年度で6回目となる研究授業、研究協議の実施及び府内への公開 ・生徒の授業アンケート「授業内容に興味・関心を持つことができた」80%以上 [84%]「授業を受けて知識や技能が身についた」80%以上 [85%]	
	ウ 新たな教育課題への取組み	ウ・円滑な新指導要領の実施を図る。 ・評価方法の研究を継続し、教科における指導方法・評価について、統一・共有化を進め、評価について生徒・保護者の理解を得る。 ・1人1台端末の活用について、「リディング GIGA ハイスクール研究指定事業」の指定を活かし、さらなる利活用を図る。	ウ・生徒の「学習の評価について納得できる」85%以上 [86%] ・生徒「授業で ICT 機器を使う機会がよくある」90%以上 [95%] ・教員「ICT 機器が授業などで活用されている」90%以上 [97%]	
	(2) 危機管理力の向上	(2)	(2)	
	ア 不測の事態への迅速な対応力の維持・強化	ア・不測の事態にも迅速かつ組織的に対応するチーム力を維持する。	ア・生徒「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」80%以上 [79%] ・保護者「いじめについて子どもが困っていれば真剣に対応してくれる」85%以上 [86%] ・教職員「いじめが起こった時の体制が整っており、迅速に対応できる」90%以上 [97%]	
	(3) 効果的な情報発信	(3)	(3)	
	ア 本校の特長と魅力の先鋭化と情報発信の強化	ア・本校の特長と魅力を再確認し、校内外に向けて積極的に発信するため、保護者宛のメール等の活用促進およびホームページのさらなる活用を図る。	ア・保護者「学校は教育情報について提供の努力をしている」80%以上[81%] 「千里高校は魅力ある学校といえる」90%以上を維持 [92%]	
	(4) 働き方改革の推進	(4)	(4)	
	ア 生き生きと働ける環境づくり	ア・時間外労働の削減を図る。 ・部活動方針を遵守し、適切な休養日を設定し、適正な指導・運営に係る体制の構築を行うことで、教職員の時間外在校等時間の削減を図る。 ・ICT 機器の授業および校務における活用方法を促進する。 ・相談したり助言しあったりできる関係作りのための機会を持つ。	ア・教職員一人あたりの超過勤務時間数で前年度よりさらに5%削減をめざす。[406時間/人] ・年間時間外在校時間720時間以上の教職員0人をめざす。[8人] ・ICTを活用したさらなる校務の効率化を図る。 ・「分掌や学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」65%以上 [62%] ・「教育活動について日ごろから話し合っている」80%以上 [76%] ・ストレスチェック結果を事業場全体の平均以上にする。[109/99]	